

第9回 八幡市地域公共交通会議 議事録



令和6年1月26日（金）午後2時～

第9回八幡市地域公共交通会議（議事録）

日時	令和6年1月26日（金）午後2時～午後4時
場所	八幡市役所 5階 会議室5-1
参加者	委員・オブザーバー 18名 随員 1名 傍聴者 6名 事務局 6名

1. 開会

2. 市長あいさつ（市長 川田翔子）

- 12月の第4回定例会議において、高齢者をはじめとする地域の皆様が、移動しやすい持続可能な公共交通の充実にしっかりと取り組んでいく旨を所信表明
- 地域の皆様が住みやすいまちづくりのために、公共交通は非常に大きな役割を果たすと思っている

3. 会長あいさつ（会長 井上 学）

- ドライバーが非常に不足している。鉄道もかなり厳しい。施設の整備士も不足している状況
- 運転士等が不足すると会社の廃業やバスの運休が起きる
- 現在は100人必要なところに77人程しか運転士が確保できない
- 運転士は不足するが、一方で働き方改革は必要な流れ
- 課題は多いが、そういった点も加えて話し合いを

4. 報告事項

（1）公共交通施策の進捗について（資料1）（説明：佐野総括主任）

ア 水珀停留所について

- 水珀停留所は、バス停車時、前方の横断歩道が見えにくい
- 横断歩道は通学路であり、事故の発生を懸念
- バスベイを設け、横断歩道を視認しやすく改良
- 現在、供用開始済み

イ 大芝停留所について

- 大芝停留所は路線バスとコミバスを乗り継ぐ停留所
- バス待ち環境改善のため、同停留所に上屋を設置

ウ 公共交通マップの作成について

- 転入者や観光客が公共交通を利用しやすい環境を作るため
- 市内の小学生にも配布し、将来の公共交通利用につなげる

- 路線図はバスの本数に応じて太きを変更
- 市内の施設をピクトグラムで表示
- コミュニティバスの路線図も掲載
- 概要面には、「バスの乗り方の基礎知識」「京阪グループバスナビ」「コミュニティバスやわたについて」「電車・タクシーの利用について」掲載

(2) 橋本西山地域オンデマンド交通について（資料2-1、2-2）（説明：佐野総括主任）

- オンデマンド交通は橋本地域及び西山地域の移動手段の1つ
- 運行主体はNPO法人道しるべ
- 利用対象者は利用登録をされた方
- 運行地域は橋本地域および西山地域内に限定
- 利用料金は1回400円
- 運行曜日は月曜日から土曜日
- これまで計5回の実証運行を実施
- 令和4年 9月 バス・タクシー事業者とNPOで橋本西山地域オンデマンド交通に関する確認書を締結
- 令和4年10月 本地域公共交通会議において合意書を交付
- 令和5年 7月13日 運輸局へ自家用有償運送の登録を完了
- 令和5年 7月25日 サービスを開始
- 確認書では3ヶ月に1回、公共交通会議で利用実績を報告することとしている
- 地域への周知不足が課題
- 登録者数100名に対し、利用は20名程度

<質疑応答>

Q（松石委員）：

水珀停留所の反対側の停留所は改良の計画はあるか。

A（佐野総括主任）：

反対側の停留所は特に考えていない。今回の目的は、通学路である横断歩道の安全確保であり、停留所の改良により、横断歩道の視認性が上がり、安全を確保できるものとする。

A（田岡課長）：

現在、具体的な計画はない。バス待ち環境の整備は優先度を見ながら少しずつ行いたい。

A（山本委員）：

京阪バスの方でもバス停の整備について特に計画はない。

Q（松石委員）：

マップを石清水八幡宮駅や樟葉駅にも置いてもらいたい。

A（佐野総括主任）：

市役所にも設置し、ホームページにも掲載予定。

A（田岡課長）：

駅への配架は部数に余裕があれば検討したい。

Q（岸委員）：

マップに周辺市町のバス経路も掲載できないか。

A（田岡課長）：

市民の利用を基本としており、市内を通う路線をメインに配置している。

Q（井上会長）：

マップについては、赤と緑が視認されにくい方へ配慮いただきたい。

A（田岡課長）：

承知した。

5. 情報共有

（1） 公共交通事業者からの情報共有

ア 京阪バス（説明：山本委員）

- 八幡市域において路線の見直し（系統の減便や廃止）
- 金振東周辺でのフリー乗降区間の廃止

イ 京都京阪バス（説明：石川委員）

- 1月13日土曜日、コミバスにおいて乗客を転倒、負傷させる車内事故が発生
- 被害者に陳謝するとともに、より一層の安全対策と事故防止対策に全力で取り組む

ウ 京都府タクシー協会（説明：上田委員）

- 京都駅にて協会加盟事業者による乗合タクシー事業を実施中
- 1便あたり1.04人の利用

エ 運転士の仕事紹介イベントについて（説明：山本委員、井上会長）

- 運輸支局の施策
- 学生の就職先の選択肢にバスが入っていないのが問題
- 国とバス協会が協力して運転士の魅力向上に努めるためのイベント
- 運転士の仕事を見える化するためのイベント

<質疑応答>

Q（西村副市長）：

人材不足に加え、人件費、燃料費の高騰についても理解しているが、毎回会議の中で路線の減便や廃止という情報が出る中では、コミュニティバスだけでカバーするのは難しいと考える。

計画上はコミュニティバスのダイヤ・ルート再編検討を掲げているが、もう少し範囲を広げて八幡市全体の地域公共交通をどうしていくのかを議論していかないと考えられないと考える。

（バス事業者に対して）中期的な見通し、たとえばこの路線が乗客何人以下になれば維持できない等の情報があれば、我々も対応ができるし、八幡市全体の公共交通をどうしていくのかという計画も立てやすくなる。こういう状況は近隣市町村も同様で、一緒に考えることも可能と思う。情報をもっと早めに出していただけると市としてはありがたい。

A（山本委員）：

何人乗ったら大丈夫なのかという話はよく伺うし、親会社からも指標を決めてやれば良いのではという意見もあるが、実際はそういかない。

バスは鉄道と違い、その路線だけを往復してそこだけに車両を使ってるわけではない。総合的に営業所の運営をしており、特定の指標だけでコストや人員を削減するのは難しい。

今回の減便は改善基準告示に対応するための減便であり、運転士不足は解消しない。人がいない中、法律が変わることによって厳しい境遇に置かれているところをご理解いただきたい。

（今後の路線見直しの見込みについて）何らかの情報を示したいが、中長期の計画を立てるのは困難であることをご理解いただきたい。

⇒（西村副市長）

状況は、重々承知している。何度も言うが、我々はコミュニティバスのダイヤ・ルート再編を検討してきたが、今の状況等を伺うと、国でも乗り合いやライドシェア、デマンド等、色々な方法が出てきているので、八幡市全体で公共交通をどうするかという議論が必要になっていると考える。

幹事会等で議論していくので、ご協力をお願いしたい。

Q（平田理事）：

・コミュニティバスの事故について

市としても大変残念に思っており、より一層の安全対策に努めていただくこと、負傷された方に丁寧な対応をしていただくことを願います。他の事業者についても、より安全な運行を心がけていただきたい。

・路線バスの見直しについて

バス路線の減便と廃止について中身は理解したが、主にどのような利用者がどの位利用されていて、どのような影響が出てくるのか。また、無くなることによってどのような影響が出て、我々は何を考えていかなければなら

いのか、わかっている範囲で情報をいただきたい。

利用者へは、どのような方法で、理解、協力を得ようと考えているのか。

運転士不足に対しては、対応としてはまだまだ入口のところで先が見えていないという話だったが、その認識でよいか。

A（山本委員）：

運転士不足については、そうである。

バスは鉄道と違い、どこからどこまで乗ったか把握できない。

現金やICカードの収入から確認することになる。今回の対象は41系統の利用が多く、20人程度。利用は多いので補完することになる。その他の系統は利用が10人以下で、影響は限定的。

周知については、停留所の告示やバス車内、ホームページで行う。

(2) オブザーバーからの情報共有

ア 枚方市（説明：塚本氏）

- バスバックヤードツアーを開催
 - ・ 1月27日、28日の2日間 計4回実施
 - ・ 場所は京阪バス枚方営業所
 - ・ 内容は洗車機体験、検車、整備工場見学等
 - ・ 各回定員30名に対し、多い回で約120名申し込みがあった
- 樟葉駅前広場の環境整備
 - ・ 樟葉駅の利用環境改善と賑わいやゆとりのある駅前空間の形成
 - ・ 噴水撤去、天然芝の芝生広場やベンチ・上屋の設置など
 - ・ ほこみち制度を活用
 - ・ 5月頃、供用開始予定

イ 京田辺市（説明：近本氏）

- バスポイント付与事業実施
 - ・ 小学生以上の市民を対象にICカード（京阪バス・京都京阪バスはICOCCA、奈良交通はCI-CA）に2,000ポイントを付与
 - ・ 市民7,000人分のうち、約4,200人から申し込み
 - ・ 高齢者のバスの利用に結びついている
- 路線バス無料の日
 - ・ 11月3日～5日までの間、路線バスを無料に
 - ・ 今回で3回目
 - ・ 11月3日に開催される市民祭りに合わせて実施
 - ・ 広報に同封したチラシを見せれば路線バスを無料。但し、市内での降車限定
 - ・ 3日間で約2万4千人の方が路線バスを利用。前週比1.5倍

ウ 久御山町（説明：武田氏）

- バス待ち環境改善助成
 - ・ ベンチ、上屋の修繕、照明の確保が対象
 - ・ 経費の80%を助成
- デマンド乗り合いタクシーの運行
 - ・ 料金は一般の方向けには300円、福祉的な要素をお持ちの方は200円

6. 協議事項

コミュニティバスのダイヤ・ルート再編検討について（説明：佐野総括主任）
（資料3-1～3-3）

- コミュニティバスやわたの乗降客調査について
 - ・ ダイヤ・ルート再編を検討する基礎資料とすることを目的
 - ・ 各停留所の利用状況を調査
 - ・ 調査期間は令和5年9月25日～10月1日
 - ・ 調査方法は調査員がコミュニティバスに乗車し、各停留所の乗降人数を計測
- 調査結果について
 - ・ 男山泉、生涯学習センター、おさ田、市役所庁舎前、八幡小学校前の停留所は1日の利用人数が30人以上
 - ・ 一区公会堂～ありあけ公園間、東部の停留所は1日の利用10人以下
 - ・ 昼間3、4、6便の利用は多く、1便と10便の利用は少ない
 - ・ 日曜日の利用は他の曜日と比較して少ない
- 調査結果の考察
 - ・ 公共施設や医療機関を最寄りとする停留所の利用は多い
 - ・ 日曜日はこれらの機関が休業しており、利用が少ない
 - ・ 鉄道駅に接続していないため、朝夕ラッシュ時の利用が見込めない
- 幹事の意見
 - ・ コミュニティバスの再編を検討する場合、運転士の確保は大丈夫か
 - ・ 折り返し時間に余裕があれば遅延解消に繋がる
 - ・ 利便性を考慮するなら鉄道駅に接続する方法を検討してみても

◇まとめ（井上会長）

コミュニティバスの現状が乗込調査により可視化されており、基礎資料になる。公共交通が先細りしていっている問題は、社会全体の問題でもある。ピンポイントにコミュニティバス、ここだけを変えて行くというわけにもなかなかいかなくなっていることから、もう少ししっかり時間を据えて、八幡市全体の公共交通をどうしていったらいいかという中で、コミュニティバスをどうしたらいいか位置付けていくということで、間違いはない。コミュニティバスも含め、八幡市全域の公共交通も視野に調査研究を進めていただきたい。特に次年度以降、皆さんと汗と知恵を絞っていかないとならないと思うが、資料は

しっかり作っていただくので、それを基に検討できればと思っている。

7. 閉会（閉会あいさつ 井上会長）

- いまはドライバーをどうやって確保していくかが重要
- 日頃収集した情報は、会議で共有していきたい
- 皆さまはどうしたら電車に乗りたくなるか、上手くダイヤに合わせてどう活用するのかを考えながら公共交通を利用し、魅力を見つけていただきたい